

「季節外れのなすきゅうり」

作 中平おーし

・制作意図

人間が生きていく上であと少しの何かがあればと思うことがないだろうか。

そして、それは大抵叶わぬものであると同時に、万が一叶っていてもなかなか自身では認識できないものであったりする。

人生とは不確定のものが多く、日々がたとえどんな綱渡りであっても歩まねばならない、そんなとき誰かが少し手を差し伸べてくれたらどんなに救われるだろうかと考えたりする。

それがこの物語の登場人物においての鈴子であり、この物語および公演自体がお客様にとっての鈴子であってほしいと願いながら描いたものがある。

・あらすじ

「あの世」にあると言われていた株式会社BON。BON（ボンオボン）は日本にある夏のお盆文化で使われるきゅうりとなすを手配する会社。

そんな「あの世」にも働きかた改革が到来し、そこに勤める孟蘭田鈴子は突然休暇を言い渡される。そこで鈴子はその休暇を利用して旅行に行くことになるが彼女の旅行の目的地は長年の夢だった現世！

働きすぎて自分が何者であったかなどとうに忘れてしまった彼女の忘れられない暖かくも切ない現世旅行が始まろうとしていた。

（ちなみにボンオボンはフランス語と日本語を組み合わせた造語で「良いお盆を」、という意味である）

・各パート演出意図および演出の思惑

1 仕事の意味、行動の意義、希望への憧れ、遠き日の繰り返し

まずこのパートでは主人公の鈴子とその弟直輝との物語である。

もちろん鈴子以外の現世の家族は鈴子として姿では認識はできないため他人のていで物語は進んでいく。

そのため、全編通して重要視したいのは役者と役者の距離感である。

冒頭、鈴子と直輝はもちろん初対面として展開していくが、徐々に会話続いていくと支配権は鈴子になっていく。

そのため積極的に鈴子が動き、距離を詰めたり距離を置いたり直輝を翻弄する。直輝はそれに合わせることはできないもどかしさの中にも心地よさを感じてほしい。

それはなぜかといえばあくまで初対面、先にも言った通り現世の家族は鈴子として姿では認識はできないといいながらもこれは家族の物語であるため、いかにも生前の時の関係性のままにことが運ぶところに美しさが宿ると思っっているからである。

歳の近い姉と弟、衝突こそしながらも結局気が合うのだ、馬鹿にしつても結局わかりあえる、しかもそれは姉が弟を、弟が姉を想うからこそ成

り立つ阿吽の呼吸に近いものそんなものをイメージしている。

そして弟の悩みには真剣に答えながらも鼓舞をして、優しく背中を押す、君にはまた歩き出せる力があることを私は一番知っている、そんなイメージだろうか。

社会に出れば誰しもが感じる悩みや自信の価値を推し量る難しさ、そしてそれを脱するのは意外と簡単で誰かのちょっとした助言だったりする。何かを頑張ることの価値、継続の価値、踏み出す勇氣、その価値をまさしく自身の生き方で体现するたんだかたーんに彩ってもらえればと思う。

2 好きなことの意味、継続の苦悩、継続の意味、孤独と希望、約束  
このパートでは先ほどと同じく兄弟、姉妹の話でありながらまた違う関係性を表現していきたい。

姉の涼子は長女でありながらも自由奔放なキャラクターを想像しており、精神の根幹には優しさと強さを兼ね備えているどこか頼れる姉であ

る。

鈴子は生前、自信のやりたいことや夢などが無い自分を否定してしまう時期があった。

それを救ったのが姉の涼子であるのだが、そこ頃からより一層姉を尊敬する側面を持つようになる。

それらを踏まえ、基本的には会話の支配権が涼子にあり、先ほどとは異なる進行をとっていく。

序盤、あくまで鈴子は涼子の音色に惹かれて登場し涼子の領域に侵入した側であり、動きと精神に動きにくさを感じるところからはじまる。

主に動きは鈴子はあくまでその場で動き、涼子が距離感を担当しつつ身を守る距離感を維持する。

制限下の中でも純粋に涼子の奏でる音色を自信の精一杯の表現力で褒める、でもそこには圧倒的な壁、溝のようなものがあり決してたどり着けないもの、それは自信に誇れる夢や好きなことがないからこそ生じるものを鈴子は感じている。

だが涼子はそんなことは実際どうでもよくて、どんな些細なことにも意

味があり、それにこそ価値があるという一種の運命の流れを自身で導く姿を自身で体現する、そして自分自身もその小さな意味に躓くことはなく、それでも歩く価値を自身で見出す美しさ、それは私だけではなくあなたにもあると鈴子に告げる。

そんなやりとりの中にあるのはやはり年上の姉が幼き妹を自信の姿で導き、時に出る助言が妹にとっての金言であったりするそんなイメージである。

鈴子にとっていい終わりかたを迎えそうに思った時、どこかお互いにシンパシーを感じて名前を聞くことになった時、に鈴子の旅行にも変化が起きる。そしてゆきほさんの最後の演奏でそれをより一層落としてほしいと期待する。

3 過ぎた時間の重さと儂さ、認知の外にあった本当の気持ち

このパートでは今までの1と2とはまた違う姿を見せていきたい。

鈴子の母の美貴子と鈴子の友人である雪菜との会話にて見せたいのは

「時間」である。

そしてこのパートにおける時間は様々なもので、未来へ進む明るいものから過去の時間。そして止まってしまった時間、その重み、それでいて進み続ける時間とどう接するか、など鈴子とは関係ないところでの時間の経過についての話が進むことになる、またこれも大事な見せ場としたい。

1と2で語った登場人物の支配権は今回どちらにもなく、ここでは可能な限りフラットな印象で進めていきたいが、どうしても三輪さんの方が強くはなってしまうかもしれない。

だがこのパートでは照明のギミックがあるため、そちらも含めてバランスをとっていけたらと考えている。

ここでは先輩母と後輩ママの他愛もない会話が進んでいくが未来ある子供について、そして自立した子供について、そこから鈴子のことである時間が止まってしまった子供について、いろいろなものが語られている中、先輩母がいかにかを考えてこの5年を過ごしたか、当たり前のように歳をとった後輩ママがたどり着いた「母」という役目についてに思い

を馳せ、幕を閉じたい。

だが次に続くのは鈴子はここで自信の存在の確信を持つシーンでここでもう一度叩き落としたい。この物語はここからどう進むのか？

疑問を残しつつ、松浦さんの演奏に移動する。

4 真実の探究は結果叶わないということ、それは探究にこそ真理が宿るからさて物語はついにクライマックスを迎えるわけだが、ここでは今までとはまた違う演出を展開していきたい。

ここでの支配権はあくまで父である陽一にあるが脚本の内容も踏まえて距離間はむしろ変えず静的な運びをしていきたいと考える。

むしろ1と2では物理的な距離感で互いの立場や内的距離感を演出してきたがそれだけでは測れない距離感もあるのでは？それが会話の中で感じられたらそこに物理的距離感の演出は必要ないのでは？という気持ちも持っていたい。

そしてそれらをいかし際立たせるための合間合間にある陽一と鈴子との掛け合いでもある。

親子関係が悪いわけではないがどこか父に何かを見透かされそうで鈴子は探りを入れ始める。

自信の本当に聞きたいことのために会話を続けるがどこか父の流れに乗らざるを得ない状況が続く。

だがようやく聞きたいことが少しずつわかっていくが、結局素直に話ができたわけではないような不思議な終わり方を鈴子はしてしまう。

親子の会話とはそういう側面を持つものなのだ。

だが父からしてみれば長年待ち望んだ奇跡の時間を過ごしているかもしれないので満足なのである。

それは優しいすれ違い。

あくまで人間は根本的な主観の共有ができないという仕組みからくる不条理をそれでも仕方がなくそういうものだとして許容する寂しさと理解を描きたいと考えている。

「プロローグ」

孟蘭田 鈴子 うらたすずこ (早瀬 聖)

金吉 些々利 かねきちささり (世良川 明)

鈴子 いつもお世話になっております、丁寧な対応で行きはどこよりも早く、帰りはどこよりも長く

鈴子 お客様により良いお盆を、株式会社bonoBON うらたが承ります、はい、はいはいはい、わかります、はい

些々利 あ、鈴子！ねえ！鈴子ってば！早く！

(こっちに來なさいアクション)

鈴子 はい、また折り返し電話をいただければ、はい、私うらた

が、はい、ズッキーニは対応してなくて、はい

(鈴子が近づいてくる)

些々利 この会社は何をする会社ですか！

鈴子 急にどうしたの？

些々利 いいから！

鈴子 はあ、日本にあります夏のお盆文化で使用するご帰宅用きゅ

うりの馬とご帰還用ナスの牛をどこよりも早く丁寧にお客様  
に提供し、さらにはここ「あの世」から現世まで無事送迎す  
るところまでをさせていただく立派な会社です！

些々利 素晴らしい！突然だけど鈴子、休暇だって

鈴子 休暇？あっはっはっは、全然面白くないんだけど、こんな年

中忙しい会社が私に休暇だなんて

(見つめる)

鈴子 ほんと？

些々利 さつき課長が言った、働きすぎだっさ

鈴子 働き方改革もついにここ「あの世」まで来たんだ、いい流れ！（きらーん）

些々利 さらに朗報、会社から休暇に伴う旅行のプレゼントだっさ

鈴子 ええ！ここいい会社じゃん、最近は何かと忙し過ぎたからいい休暇にしたいなー

些々利 どこか行きたいところある？

些々利 例えば、閻魔大王様監修八大地獄体験ツアー（にやり）とか、とろけるような時間をあなたに仏様監修極楽浄土満喫ツアー（にやり）

（鈴子、静止）

些々利 ごほん、いろいろあるけど何にする？よければ私が手配しとくけど

鈴子 私行ってみたいところがあるの

些々利 どこ？

鈴子 現世

些々利 げんせ！なんでまた！

鈴子 私ずっと気になってたんだー、ずっとここで忙しい日々を過  
ごしていてそんな時に私はどこからきたんだろう、私はどん  
な人間だったんだろうって

些々利 んんん

鈴子 だめなの？

些々利 だめじゃないけど、現世はとても複雑な場所で行った者が戻  
らないって聞く

鈴子 戻ってこなかったら？

些々利 (死ぬポーズ)

鈴子 (ヒツ)

些々利 楽しいことだけじゃない、現世はとっても厳しいところだっ  
て聞いたことある

鈴子 必ず戻ってくるよ

些々利 ほんとにー？みんなそうやって言う

鈴子 私を信じてよ、私の営業成績が信頼の証でしょ！

些々利 彼のツアーよりも移動に時間がかかるから休暇の時間も少なくなるとよ？

鈴子 はい！

些々利 はああ、いいよ、私から課長に言ったげる

鈴子 ありがとう！大好きだよ、些々利

(抱きつく、嫌がりつつ抱きしめる)

(ガゴーン)

些々利 この鐘の音が聞こえたら必ず戻ってきて、いい？何があったても、絶対に

鈴子 うん！

些々利 現世って不思議な場所で鈴子が現世に行くとそこに必ず意味が生まれるの

鈴子 意味？

些々利 うん、良くも悪くも存在する意味が生まれてしまう、そしてみんなその意味に飲まれて戻れなくなる

些々利 だけど必ず戻ってきてね、鈴子はもう現世の人じゃないんだ

から、負けないでよ

鈴子 うん！ありがとう！

些々利 けど何より楽しんできてほしい、現世にはおいしい食べ物も

たくさんあるらしいし、素晴らしい音楽もたくさんあるって

いうし！

鈴子 うん！

些々利 あ、そういえば課長が携帯の機種変をこの新型nas phoneに済

ましておいてっさ

鈴子 え、まだこっち使えるよ

些々利 いいから、会社から支給されるんだからガタガタ言わずにや

ればいいの！すぐ機種変して！してから現世行って！

鈴子 はーい、わかりましたー！じゃあね！

些々利 行ってらっしゃい、良い旅を

1 「最後にはいつも心の味方で」

孟蘭田 鈴子 うらたすずこ (早瀬 聖)

浦田 直輝 うらたなおき (藤田 卓巳)

(都会の喧騒の音)

鈴子 はああああ、ここが現世！（スンスン）すごい！なんという  
か、こんなに懐かしい気がするなんて

鈴子 (楽しそうに優しくはしゃぐ)

直輝 (疲れた姿で直輝が入ってくる、仕事の休憩でタバコをすい  
にきた、どっしり座る)

鈴子 わくわくしちゃうなあ、なにしよっかな、そういえば来れる  
ってだけではしゃぎすぎてどこに行こうか

鈴子 考えてなかった、あはは

直輝 (スー、フー)

鈴子 あのお、すいません

直輝 (スー、フー)

鈴子 (あれ？って客席を見る)

直輝 (顔逸らしてずっとスカす)

鈴子 あのお！すいま

直輝 はいはい、聞こえてます、ずっと聞こえてました、なんですか？

(あは)

鈴子 ここら辺でなんか楽しい場所とか、おいしいお店とか知りませんか？私あんまりこの辺のこと知らなくて

直輝 新車のナンパですか？

直輝 愛知県に楽しい場所なんてないでしょ、みんなそういって有名じゃない、おいしいってのも人によって舌は違いますし、人それぞれっていうか

鈴子 ……うわ、面白くない人だ

直輝 は？

鈴子 そんな気持ちはずっと持って生きてて楽しいですか？そんなだと絶対幸せになれませんよ？

鈴子 あ、でもそういう人は幸せにならなくてもいいのか、納得

直輝 ちょっと、流石に言い過ぎ

鈴子 あ、すいません（照れながら、てへ）

直輝 どこからきたの？てか、何歳？

鈴子 え、新卒のナンパですか？

直輝 はあああ

鈴子 うそうそ、ちょっと遠くから旅行に来たの、多分年齢はあなたのとちょっと上くらい？

直輝 え、嘘でしょ、俺のが絶対上だよ

鈴子 いやいや、推測するにあなた今仕事の休憩とかでしょ？私はそんな仕事の休憩の時に腐ったりするガキじゃないから

直輝 いや、お、それは、まあ、誰だっっているいろいろあるでしょ！

（ムスッ）

（間を置く）

鈴子　なに、仕事楽しくないの？

直輝　ええ、いや、そんなことはあるというか、ないというか

鈴子　ふむふむ、ならこのお姉さんが悩める男子の相談を聞いてあげよう

直輝　なんか偉そうだな、そんなに歳変わんないでしょ

鈴子　いいからいいから、ほれ

直輝　んんん、まあ仕事でさ、ちょっとミスをしたわけ

鈴子　うんうん

直輝　で、まあそれをすぐ謝っただけで、上司にすげえ怒られてさ、うわ、仕事辞めてえーって

直輝　いやそりゃあ俺が悪いよ？だけどそんなに怒るかってくらい怒鳴られてさ、お客さんにだって迷惑かけたわけじゃないの  
にあの人、結局何にも分かってないんだよ

鈴子　仕事はそういう理不尽な時あるよねえ、私も言われたなあ、  
もっと早い馬はないのか！きゅうりよりズッキーニの方が早  
そうだ！って、いやズッキーニはカボチャの仲間だろ！な

あ！

直輝  
え？

鈴子  
ああ、こつちの話、けどそういう嫌なことを耐えた後にいいことがあったり、新たな発見があったりするよね

直輝  
まあ確かに、わかる気もする

鈴子  
あなたはなぜこの仕事をしているの？

直輝  
なぜ、かあ、なんでかなあ

鈴子  
きっかけは？

直輝  
きっかけかあ、ああ、姉がいるんだけど小学生くらいの時に作った卵焼きを褒めてもらえたのがすげえ嬉しくて、なんかコックさん？的な？料理人っていいかもなあって

直輝  
だって生きてりゃ何かしら食うわけじゃん？それで美味しいもん食うと幸せじゃん？その美味しいもん自分が作れて食べてもらっていろんな人を幸せにできたらさ、自分も幸せなんじゃないかって

鈴子  
へえ、可愛いところあるじゃん

鈴子　でどうなの？今はお客さんに出したりはしてるの？

直輝　ああ、最近は前菜だけど任せてもらえてるよ

鈴子　どうだった？感想とか聞けた？

直輝　この前たまたまそういう機会があったんだけど

鈴子　どうだったって？

直輝　すげえ美味しかったって

鈴子　いいよねえ、そういうの！そこに仕事の意味があるよねえ

ー！自分がしたこと、どんな些細なことでもいいからそれが喜んでもらえるって本当に嬉しいし

直輝　やあってよかったなって、そのために本当は仕事をしているし、そういうところにやる気や意味を感じられるっていうか

そうそう、ああ、生きててよかったなって、その瞬間があったことを日々忘れがちなんだけど、大事だよなって

鈴子　わかってんじゃん、クソ上司に負けてらんないね

直輝　まあ、確かに

鈴子　尊敬ももちろんしてるだろうけど、超えていきたい背中だね

直輝 最初は思ってた、俺なんかにできるのかなって

鈴子 うん

直輝 修行に入っても上手くいかないことが多くて、自分に向いて

なかったりしてとかできやしないとか、選択を間違えたと

か、自分なんかが頑張る意味なんてあるのかなってずっと考

えてた

直輝 けど今ではやってよかったって、この選択は間違ってたないっ

て、今でも胸を張って言えるわけではないけど、いつか言え

るようになりたい

鈴子 きつと言えるよ、その瞬間がもうすぐくるよ、きつと

(間を置く?)

直輝 こう言う時に聞くと最高のミュージシャンがいるんだよね

まさしく今の悩める俺を導く憧れ、的なの?

鈴子 え、だれだれ?

(画面を見せる)

(知らないって顔)

直輝 か、なにも知らないんだ、世界はこんなに広いのに、情け

ない

鈴子 むかつく、馬鹿にすんな

直輝 まあとにかく聞いてよ、魂の歌と魂の演奏をさ

(イヤホンを片方貸す)

(徐々に暗くなる)

2 「ただ少しだけの理由と憧れがその意味をもう一度」

孟蘭田 鈴子 うらたすずこ (早瀬 聖)

浦田 涼子 うらたりようこ (ゆきほ)

(暗転中のピアノの演奏)

(それに誘われてやってくる、座る、聴いてる)

(演奏終わり)

涼子      こんにちは

鈴子      こ、こんにちは、もしかしてさっきの演奏ってお姉さんですか？

涼子      あ、聞こえてた？そう、私がひいてたの、このホールで働きのながらたまにこうやって弾かせてもらうの

鈴子      とってもいい音色でした、なんというか荘厳で、綺麗で、深くて、明るくて、透き通ってて？

鈴子      あれ、私うまく説明できてます？

涼子      そ、そうね、ちょっと複雑になりすぎちゃってるかな？けど嬉しい、ありがとう

涼子      昔はよく音楽聴いたりしたんですけど、こういうの久しぶり

鈴子      だからどうやって説明したらいいか分からなくて、けどよかったことに変わりはないので！(拍手)

涼子 あはは、嬉しいな、私も久しく人に聴いてもらってなかった  
もんなあ、やっぱり生の音楽はいいよね

鈴子 はい、とつても

涼子 本当にいいものは言葉で説明することができないって言った  
りもするし、私天才だったりして

涼子 そんなことは置いといて、あなたはここら辺の人？どこから  
きたの？

鈴子 えっとー、少し遠くから

涼子 遠く？なんか含んだ言い方だね、まあいいけど、旅行か何  
か？

鈴子 まあそんなところです

涼子 見た目は若いから、自分探しのな？それともボーイミーツガ  
ール？青春だねえ

鈴子 そんなんじゃないです、多分

涼子 多分

鈴子 けど、なにかに呼ばれるように気づいたらここにいました

涼子　　そっか、これも何かの縁だね、ではせっかくなのでもう一曲、聴いてくれる？

鈴子　　やった！（拍手）

（演奏）

鈴子　　お姉さんはピアノが好きなんですか？

涼子　　そうねえ、小さい頃から弾いてて、ずーっとやめなかったから大好きなんだろうね

鈴子　　好きなものがあるっていいですよね

涼子　　褒めてくれるねえ、まあけど今時は趣味とかを持つってそんなに簡単じゃないっていうもんね

鈴子　　どうしてピアノを好きになったんですか？

涼子　　どうしてだったかなあ、けどもし私の演奏で誰かが楽しいとか幸せだなって思ってくれたら嬉しいと思わない？

涼子　　多分私はそれを望んでるんだと思う

鈴子　　なんか、かっこいいですね、尊敬しちゃう

涼子　　いやあ、そんなこと言いながら大したことじゃないって

涼子 あなたは何か好きなものとかないの？

鈴子 好きなものですか、私はあんまりないかなあ、どうしてここに来たのかすら分からないくらいだし

涼子 きっと何か意味があるよ、ここに来た理由、私に出会った理由、その方がなんか楽しくない？

涼子 生きてたらいろんなことがあるんだけど、いいことも悪いことも何かしら意味があって、理由がある、私がこうしてピアノを弾くのもきっと何か意味があって、もしかしたらこの世のどこかにいる誰かに聞いてもらうために、この世のどこかの誰かに届けるために続けているのかもしれない  
それが私の生きている意味なんじゃないかって

(パチパチパチ)

涼子 あはは、なんか恥ずかしいね

涼子 もしかして私がさっき言ったその誰かって、あなたのことだったりして

鈴子 え！そういうこと？

涼子 あっはっは、だったら面白いねえ、この日のために私生きてきたのかも……。

涼子 数年前に悲しい出来事があったね、人間はどうして生きるんだろうとか、なんかもう全部どうでもいいなあって自暴自棄になって

涼子 それでもピアノだけは、あの子が愛してくれたピアノだけは絶対にやめないぞって

涼子 いつかこの音が空に届くようにずっと弾きつづけてきたの、くるかわからない瞬間のためにひたすら続けてきたけどそうしてる時が一番いろんなことを忘れられて、私でいられたのも事実、でもこれじゃダメだとも思ってた

涼子 そんな時に今日あなたに出会って、実はなんか長年の霧が晴れるような気がしたの

涼子 だってここ最近はこのピアノ弾いたりしてなくて、今日なんか弾きたいなって思ってたらあなたがここにきたの、なんかすごいと思わない？人生なんて偶然の連続じゃない？や

っぱり今日だったのかも、今日のために弾きつけてきたの  
かも

鈴子 嬉しいです、そう言ってもらえて

涼子 特別な使命とか、何か物凄く大きくて偉大なものなんかいらな  
いの、ただ少しだけの理由が欲しいだけ

涼子 そんな私の自分勝手なエゴに巻き込んでごめんね、あ  
なたに会えてよかった、ありがとう

鈴子 いえ、こちらこそ、素晴らしい音楽をありがとうございます  
(はずはず)

涼子 あなたのこの旅にもきつと意味があるよ、旅の行方に何かの  
答えが待ってるのかも

涼子 あなたがなぜここに来たのか、なーんてね

鈴子 なんかお姉さんに初めて会った気がしないなあ、そういえば  
名前聞いてなかった

涼子 私？涼子、浦田 涼子っていうの、私たちいい友達になれるか  
も

(少し考える鈴子)

涼子      あなたは？

鈴子      りん、です (少し慌てて、ふくみながら)

涼子      りん、か、いい名前、似合ってるね

鈴子      ありがとうございます……

涼子      では最後にもう一曲、これは大切な家族の一人に送る一曲で

す (変更可)

(暗転、鈴子はけていく)

3 「遠き思い出も本当はすぐそばで」

孟蘭田 鈴子 うらたすずこ (早瀬 聖)

浦田 美貴子 うらたみきこ (いずみつくす)

長谷堂 雪菜 はせどうゆきな (おりえ)

(カフェにて)

(鈴子、板付)

(カランコロン、美貴子、雪菜の入店)

(BGMに店内音が流れている、小学生演奏家の公演を見た帰り)

美貴子 やっぱり、生の音楽は最高よね、2人上手だったでしょう？

雪菜 すごかったです、びっくりしちゃった

美貴子 あの子たち私の学校の教え子なのよ(ふんふん)

雪菜 立派なミュージシャンですね、すごいなあ

(席について、注文、到着)

美貴子 やっぱり子供たちのああいう頑張る姿って素晴らしいのよ

雪菜 わかります、すごいなって、負けてられないなってなります

(うんうん)

美貴子 それにしても雪菜ちゃんも久しぶりね、しかも急にライブな

んかに誘っちゃってごめんねえ

雪菜 いえいえ、全然ありがたいです、久しぶりにいい刺激になり

ました

美貴子 ならよかった、それにしても元気してた？

雪菜 元気ですよ、美貴子さんこそお元気でしたか？

美貴子 私なんていつだって元気よ、ふんふん！

雪菜 あはは、変わらずで安心しました

美貴子 ねえ、そういえば旦那さんってあの神田くんらしいじゃない？

い？

雪菜 ええ、そうなんです（てれ）

美貴子 いやだー、この地域では1番のイケメンって言われてたあの

神田くんでしょ？

美貴子 モデルにスカウトされたけど興味がない（キラント）って断

ったあの神田くんでしょ？

美貴子 いつもスツツてクールな顔してるのにお酒飲んだら顔がフニ

ヤアってなって目が線になるで有名の神田くんでしょ？

雪菜 そうなんですか？

美貴子 どういう馴れ初めなの？（ずいずい）

雪菜 いや、そんな大して面白い話じゃないんです、たまたま仕事

の出張先で偶然再会してって感じで

美貴子

えー、運命のってやつ？おばさん、憧れちゃう、ドキドキし

ちゃう、最近ドキドキなんて韓国ドラマからしか得られない  
んだからあ

雪菜

大袈裟ですって、でも美貴子さんのそういうところ昔から変  
わらないですね、なんか久々に見れて嬉しいです

美貴子

あはは、お恥ずかしいです（えへ）

雪菜

さっきの子たちが教え子ってことはまだ学校の先生は続けて  
てるってことですよ？

美貴子

もちろん、相変わらず子供が好きだし、まあ悪ガキもたくさ  
んいるけど、いつも優しい美貴子先生元気にやっています！

（えっへん）

美貴子

雪菜ちゃんは どうするの？こっちで仕事探すの？

雪菜

はい、実はもうパート始めてて、隣町のあのおっきいモール  
できたじゃないですか？

美貴子 うんうん

雪菜 あそこで友人がお店やってて、そこで働かせてもらってるんです

美貴子 そうだったの、それはいいわね、今度行かなきゃ

雪菜 ぜひぜひお越しください

美貴子 そういえば勇氣くんも大きくなったでしょう？

雪菜 はい、おかげさまで元気いっぱいです、この後迎えに行くんですけどいつつ帰りに帰りたいって、わがまま言うから困るんです

美貴子 あー、わかるわかる、うちの直輝にもそういう時期あった

美貴子 今でも生意気なガキなんだけど、昔はもっとワガママでねえ

(舞台袖より直輝登場、照明があたる)

美貴子 鈴子との喧嘩もしょっちゅうよ、意外に頑張り屋さんなんだけど、何か嫌なことがあるとたまにやけに屁理屈こねるところがあるのよねえ、あれなんとならないかなあ

(直輝、美貴子を思わず見る)

美貴子　まあ、けど今は仕事頑張ってるみたいだし、いつか私にも料理作ってくれるんだって

雪菜　えー、いいなー、羨ましい、そういうのいいですね

（かっこつける直輝）

雪菜　うちも男の子な訳ですけど、どう教育していくのがいいんでしょう？

美貴子　そうねえ、結局男の子はバキーンっていつちゃえばいいんじゃない？バキーンって、たんたかたーんって！

雪菜　バキーン？たんたかたーん？

美貴子　バキーン……たんたかたーん……

美貴子　言う時は言っ、見守ってあげるのが一番ってこと

雪菜　ふむふむ、勉強に……なります（ふむふむ？）

美貴子　その点、涼子はあっさりしていたかも、まあすぐお姉ちゃんになっちゃったからってのもあるかもしれないけど

（舞台袖より涼子、さらりと登場、照明が当たる）

美貴子 いろいろお姉ちゃんとしての負担もあったかもだけど、意外

とそれも楽しんでたんじゃないかなあって私は思ってるの

雪菜 私もよく鈴と3人で一緒に遊んでもらったの覚えてます、子

育てしてる今だからこそあの時は涼子ちゃんこう考えてたの

かなとか時々思い出したりします

(涼子、えっへん)

雪菜 たまにドジっぽいところもあったけど

(涼子、ずっこけ)

美貴子 その点、鈴子もまあ明るさと元気が取り柄って感じでそこま

で子育てに極端な苦労はあまりなかったかも

(うっすら、鈴子の上に照明が当たっていく)

(あれ?)

雪菜 そうなんですか?けどなんか想像できます

雪菜 彼女は自由奔放に見えて、意外と周りを見ていて、人との会

話を自然に望み、気づけばその人を助けている、それが一種

の才能だった、そんな彼女をみんな愛してる

美貴子 まさしく縁の下の力持ち、みたいなかんじよね、私にそっくりだわ！（ふんふん）

雪菜 ほんとですか？

美貴子 まったく

（2人で笑ってしまふ）

雪菜 あっという間に5年ですか

美貴子 そうよ、あっという間に5年、長いようで短く、短いようで長い

雪菜 ほんとですね、私も歳をとったし、子供までできた

美貴子 あれからいろんなことがあった、学びも多くあったし、涙が止まらない日々もあった

美貴子 けどいつまでもそんなことしてらんない、家族は他にもいるし、毎日はいつものように続けしね

雪菜 そうですね

美貴子 どうせなら楽しく生きなくっちゃ！悲しいこともあるけどそれこそ美しい人生よね！

美貴子　　じゃないとあの子に合わせる顔がないのよ、いつ帰ってくる

か分からないじゃない？（あは）

美貴子　　私嬉しいの、鈴子の友人である雪菜ちゃんところやって今お

話ができるのも、あなたに子供ができたことを喜べるのも、

これって本当に幸せなことよ

雪菜　　ありがとうございます、そう言ってもらえて私も嬉しいで

す、いいお母さんになれるかな

美貴子　　なれるわよ、必ず。

美貴子　　そうやって思う母親に悪い母親はいないわ

（鈴子がいち早く店を後にする）

美貴子　　さ、そろそろお迎えに行く時間でしょ？出ましようか！

雪菜　　はい、そうしましょう！息子のパジャマ買わなきゃ

（立ち上がり、準備する）

（二人で仲良くはけていく）

(舞台にむかって独白)

鈴子 全部、全部思い出したんです

鈴子 3人兄弟の真ん中でちょっと生意気な弟と芯があって自慢の姉、でこぼこでもどこかで助け合ってた仲の良いかけがえの

ない3人兄弟

鈴子 意外と裏では心配しいで泣き虫だけど、明るくて心強い母

鈴子 何も考えてないようで実は全部わかってて優しすぎる父

鈴子 私の名前は浦田鈴子、5年前に不慮の事故でこの世をさりま

した

4 「その海にはいつまでも優しい波だけが」

孟蘭田 鈴子 うらたすずこ (早瀬 聖)

浦田 陽一 うらたよういち (濱崎 翔太郎)

(海辺の音、夕方、防波堤)

(陽一が入ってくる、準備して座る、釣りを始める)

(陽一板付いてからの鈴子がゆっくり入ってくる)

鈴子 ……釣れますか？（明るく暗く、少し不安そうに）

陽一 ああ、まあぼちぼちですね

鈴子 今日は、もう何匹ぐらい？

陽一 あー、うん、まだ0かな、あはは

（間を置く、お互い客席を見ている）

（波の音、カモメの鳴き声）

鈴子 やっぱり海はいいですね、匂いも、音も、懐かしいです（ぎ

ごちなく？）

陽一 ああ、釣りしにきた……わけじゃなさそうだね、釣り竿持っ

てないもんね、ごめんね

陽一 どこから来たんですか？（鈴子を見ない）

鈴子 ちょっと遠くから

陽一 ああ、そうでしたか、それはそれは（ちょっと鈴子を見る）

（少し間を置く）

陽一 お！

鈴子 お！

陽一 え？

鈴子 え？

陽一 ああ、違った

鈴子 あー、あはは

(間を置く)

陽一 よく世間では本当にここらへんは何もないなんていわれるけ

ど、何処か行かれました？

鈴子 ええ、なんかたまたま知り合った人のお店で前菜だけをたら

ふく食べたり、コンサートホールで素晴らしい音楽を聴いた

り、カフェでゆっくりしたり、側から見れば旅行らしい旅行

ではないかもしれませんが

鈴子 今思えば私にとって特別な時間ばかりでした

陽一 そうでしたか、それはいいことですねぇ

陽一 何か特別なものなどなくてもそれを幸せと思える、それが本

当が一番幸せだと思います

陽一 あ、すみません、せっかくの旅行にこんなおじさんのくだらない話を聞かせてしまつて

鈴子 いえ、こういう時間も楽しいと思うので

陽一 お！

鈴子 お！

陽一 え？

鈴子 え？

陽一 ああ、これは違う

鈴子 あー、あはは、うんうん

(間を置く)

鈴子 釣りはもう長いんですか

陽一 いやいや、僕もあなたと同じで海が好きでね、昔はよく子供たちとよくきたんだけど、子供たちももう大人だし今は一人で来ることが多くて

陽一 それで釣りを始めたんですよ、やってみると面白くてね、けどなにより海の音を聞いていると過去に戻れるような気がする

るんです、あの頃はああだったとか、あの時は何してたとか、静かに思いを馳せるのがよくてね

陽一 お！

鈴子 お！

陽一 え？

鈴子 え？

陽一 ああ、また違った

鈴子 あー、難しいですもんね

(間を置く)

鈴子 お子さんは何人いらっしゃるんですか？

陽一 子供ですか？自慢の子供たちですよ、僕なんかよりずっと立

派でね

陽一 一番上しっかり者の涼子、一番下努力家の直輝

陽一 ほんとは真ん中に明るくて元気な鈴子

鈴子 1人だけなんか適当じゃないですか？

陽一 そうかなあ、僕はそこがすごくいいところだと思って、鈴

子に会う人は皆元気をもらえたって言うし、

陽一 彼女はそうやって会った人に何かしらの影響を及ぼす素晴ら

しい子だったんだよ

鈴子 だった？

陽一 うん、数年前に事故で亡くなってしまいました、しかもこの

釣り場に来る途中に車にぶつかってしまって

陽一 ごめんね、こんな話は良くないね

鈴子 いえ、聞かせてもらえますか、あなたはその事実とどう向き

合っているんですか

陽一 変わったことを聞きたがる子だね、ジャーナリストか何か？

ドキュメンタリー監督？

鈴子 いえ、なんだか気になって

陽一 そうだなあ、なんだろうなあ、時間とは本当にあつという間

でね、気づけば今、って感じ

陽一 最初は毎日が灰色になってしまつて、何もできなくてね、け

ど日々は続くから次第に慣れてきてしまつて

陽一 今ではほら、こうやって釣りもできちゃう

陽一 お！

鈴子 お！

陽一 え？

鈴子 え？

陽一 ああ、違うねこれも

鈴子 あー、あはは、は

(間を置く)

陽一 だけど忘れたことは一度もない、今でも一緒に海に来ていた

ことが昨日のことのように目に浮かぶんだ

(間を置く)

陽一 僕はずっとここで彼女の帰りを待っているんだろうね

陽一 帰ってきやしないのに、わかってるんだけど、わかってるんだけどね、もしかしたら、万が一もし帰ってくるならこの海に寄ってくれるんじゃないだろうか

陽一 そう思ってるんだよどこかで、ここはそんな思い出の海なんだ  
だ

(間を置く)

鈴子 もしその娘さんに今何かを伝えることができるとしたら何を伝えたいですか？

陽一 面白いことを言うね

陽一 そうだなあ、もしあの子がこの世ではなくてもどこでもいいから存在しているとして

陽一 親として思うことは元気でいてくれればなんでもいい、に尽きるんじゃないかな

陽一 何も多くを望まないよ、聞きたいことや話したいことはたくさんあるけど、そういう時に限って時間がないもんだだろうか

ら、結婚式の晴れ姿とか、あの子の孫とか、もう一度あの子の笑顔とか、そんな淡い想像をね、

陽一 けどね、ただ、あの子が元気でいてくれればそれでいいんだよ、そう伝えたいかな

鈴子 きっと元気でいると思いますよ

陽一 そう？僕も実はそう思ってる

鈴子 どうしてですか？

陽一 なんとなく君が言うことに嘘はないと思うから

(海を見ながら)

陽一 やっぱ海はいいね、釣りを始めた甲斐があった

鈴子 海、いいですね

エピローグ

直輝　　おーい！

美貴子　　おとうさん！

（家族、合流）

涼子　　あ！

（みんなで）

直輝　　煽ってくる生意気先輩！

涼子　　褒めてくれる見知らぬ女の子、りんちゃん！

美貴子　　カフェにいた照明がやけにあたる子！

陽一　　なんだ、みんな知ってるの？

涼子　　なんか、今日会ったんだよね

直輝　　俺も、たまたま

美貴子　　なんか変わったご縁ね、面白いじゃない

陽一　　そうだ、ご飯でも一緒にどうか？魚は釣れてないんだけど

いいお店がある

美貴子　　そうね、いいじゃない

（ガゴーン）

鈴子 あ、ああ、私行かないと

涼子 え、なんで、ちよつとご飯たべるだけだよ

陽一 うん、食べてすぐ帰れば、急ぎなの？

鈴子 ここまでみたいです

陽一 ここまで？

鈴子 今日みんなにこうして出会えてよかった、みんなが元気でいてくれて迷いながらも力強く生きていてくれて本当に嬉しかった

鈴子 意味わかんないと思いますけど、これ

涼子 え、なす？どういう？え？

鈴子 何かあってまたいつか私を思い出した時、これに話しかけてください

直輝 え？

(皆、動揺)

鈴子 意味はわかんないと思いますけど(あせあせ)

陽一 わかった、そうさせてもらおうよ、必ずまた帰ってきてくれる

ね

(ガゴーン)

鈴子 うん！

(みんなでどういうこと?)

陽一 行きなさい

(うなづく、走り去る)

(照明が二つに分かれていく)

(家族は残る)

鈴子 またね

終わり